

ITU-R TG8/1マインツ会合報告

国際電気通信連合（ITU：International Telecommunication Union）において西暦2000年ころの商用導入を目指した将来の公衆陸上移動通信システム（FPLMTS：Future Public Land Mobile Telecommunication Systems）の標準化が進められています。本稿ではドイツのマインツ市で開催されたITU-R TG8/1第10回会合の概要について報告します。

会議概要

FPLMTSについては従来よりITUの無線通信セクタ（ITU-R：ITU Radiocommunication Sector）のタスクグループ8/1（TG8/1：Task Group 8/1）が検討を進めてきています。今回のマインツ会合はその第10回会合で、1996年4月15日から4月26日まで開催されました。23カ国と3機関から約130名（日本

ひろいけ あきら
広池 彰

はた まさはる
秦 正治

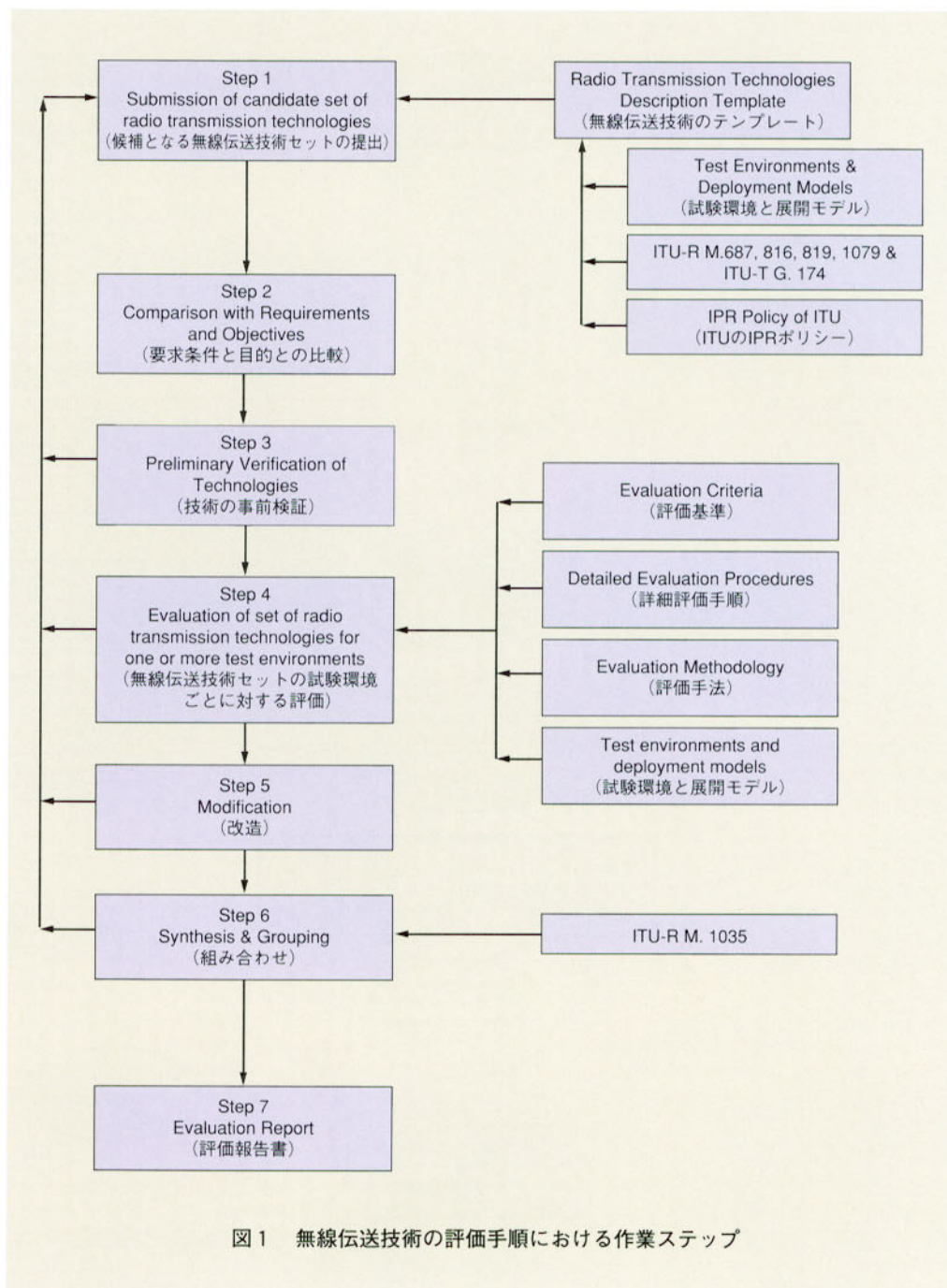


図1 無線伝送技術の評価手順における作業ステップ

から15名)の参加があり、83件(日本から13件)の入力文書について審議が行われました。

主要課題

今会合の主要課題は、

- ・提案された無線伝送技術からFPLMTS用の技術を選択するときの、提案技術候補の評価を行うための

REVAL (Radio EVALuation procedure)と呼ばれる評価手順を規定する勧告の完成、

- ・当初計画(1995年2月、無線伝送技術選択手順完成、1997年末、無線インタフェースの詳細仕様完成)に比べ既に実質1年以上遅れているワークプランの見直し、
- ・でした。

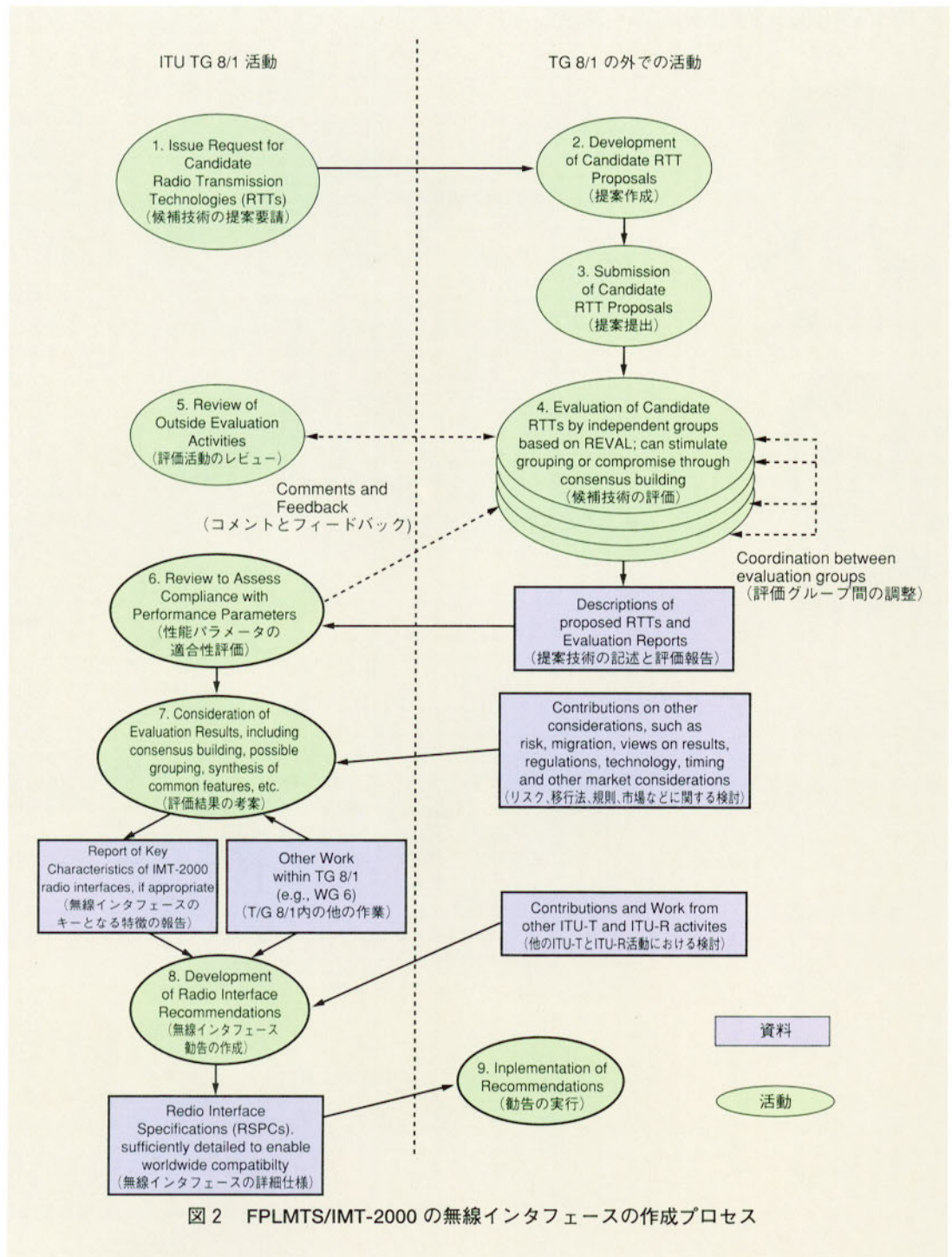


図2 FPLMTS/IMT-2000の無線インタフェースの作成プロセス

主要結果

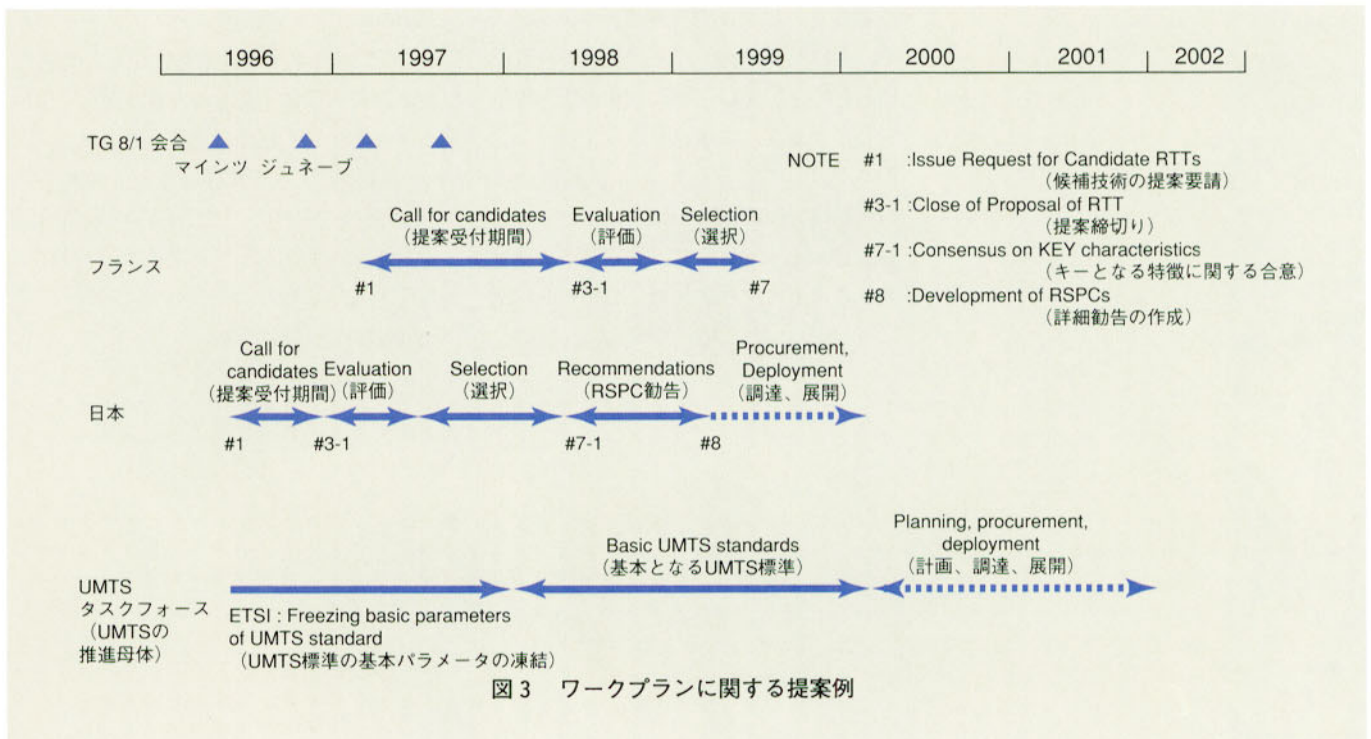
無線伝送技術の評価手順 (REVAL) については、GSM方式の進展を背景にTG8/1の作業計画を遅らせようとする欧州、加入者の急増している状況からFPLMTSの早期導入を望む日本、最終的な技術選択に直接つながらない評価手順の完成を遅らせる理由がない米国を中心にした審議の結果、妥協に基づく大幅な修正がなされた後に、無線伝送技術の“評価手順”勧告から、“評価のためのガイドライン”勧告と改名された上で勧告案として承認されました。本年10月28日に開催予定のSG8会合にて承認手続きがなされる予定です。図1に今回合意に至った評価手順における作業ステップを示します。この中で評価ステップ2はこれまでの足きりの“事前評価”ステップからFPLMTS基本勧告群との整合チェックステップに変更されました。また、評価手法としてはこれまでの定量的/客観的評価から定性的/主観的評価に近いものに変更されました。さらに、REVAL勧告内で述べている評価方法は一例であり、実際には他の評価法を使っても構わない

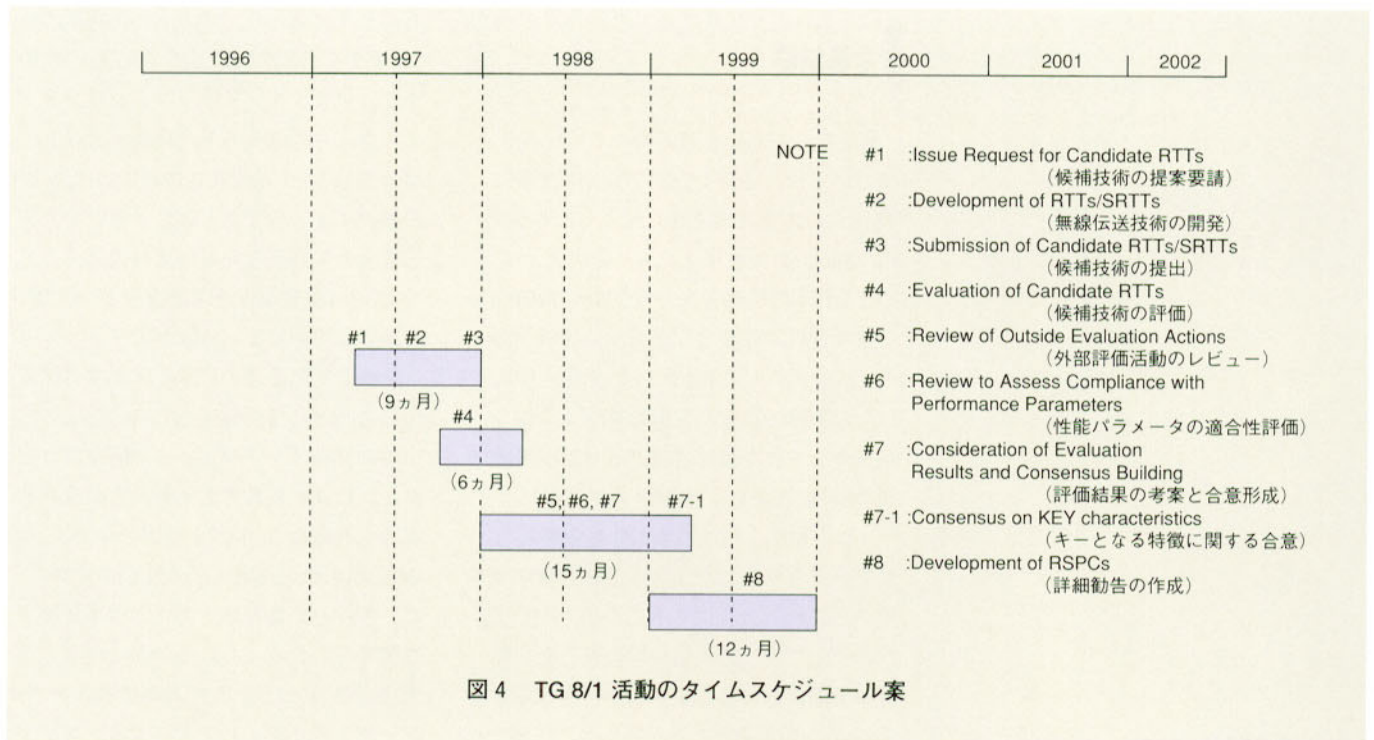
ものとされました。このような修正の後にTG8/1で承認されたREVAL勧告案ですが、フランス、英国、フィンランド、ノルウェーの欧州各国は評価値計算上の重み係数ごとの評価項目のグルーピングの検討が不十分であるという理由で、SG8会合で修正ないしは反対提案する旨をTG8/1議長報告書に記述させる形で既に宣言しているという状況です。

今会合では上述のREVAL勧告の位置付けと関連して無線伝送方式の提案要請以降の無線インタフェースの開発プロセスと、TG8/1内外での活動内容の改訂も試みられました。図2に示すとおり、“無線伝送技術の評価作業”はITU外において、すなわち各地域、各国の標準化機関などで行われるとされたのがこれまでと大きく変わった点です。活動内容について一部合意が得られておらず継続審議とされました。

TG8/1のワークプランについては図3に示す幾つかの国および地域標準化機関からの提案をベースにした審議を経て、図4に示す見直し案が作成されました。このポイントは以下のとおりです。

- ・1997年2月末……無線伝送技術候補の提案要請





- ・1997年12月末……無線伝送技術候補の提案締切
- ・1999年3月末……無線方式のキーとなる技術の選択
- ・1999年12月末……無線インタフェース詳細仕様の完成

本案に対し多くの国が支持を表明しましたが、TG8/1での正式承認はなされませんでした。しかしFPLMTSのサービス、ネットワークマターなどに対する検討を推進しているITU-T側に対する情報提供の必要性から、未承認という注釈付きでFPLMTSに関するセクタ間調整会議 (ICG FPLMTS: Intersector Coordination Group on FPLMTS) に送付されることになりました。この見直し案に対しドイツは支持、フランス、英国、

ノルウェーは不支持を表明しており、欧州内での次世代方式に関する統一されたワークプランは存在していないことが明らかになりました。一方日本は急増する加入者を収容するための周波数の不足を背景に、この見直し案は西暦2000年頃にFPLMTSの商用導入を図るという日本の要求条件には全く合致しないこと、当初計画より2年遅れのワークプランを作るようでは作業進捗の緊急性がもたられたTG8/1活動そのものの意味がなくなりつつあることを強く主張しました。

今回のTG8/1第11回会合は1996年10月15日～25日に、またREVAL勧告承認手続きが行われる予定のSG8会合は10月28日に、いずれもスイスのジュネーブで開催される予定です。